

科目名	人体の機能 I		科目ナンバリング	N-FN HB 1-02. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N20004	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 看護ケアは症状（痛い、苦しいなど患者自身が自覚するもの）や徴候（客観的に他人が観察できるもの）、検査結果などの情報に基づいて行われます。症候（症状と徴候）は人体の正常な機能や形態が破綻したときにあらわれます。したがって、人体の正常な機能や形態についての十分な知識を身につけることは、症候を理解するためや、さらには各患者への適切な看護ケアを考えるためにも必要不可欠です。人体の機能 I では生命を維持するための正常な植物機能を理解するとともに、それらの機能が破綻した状態（病態生理）を学習します。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 5に関連する。カリキュラムポリシーの2-1, 3-2, 5-1に関連している。									
到達目標	1. 呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節、栄養の消化と吸収、体液の調節と尿の生成についての基本的な機能を理解し、説明することができる。 2. 人体の正常な機能や形態が破綻することにより生じる症候を理解し、なぜそのような症候があらわれるのかを生理学の専門用語を用いて、臨床で活用可能な知識として説明することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	授業の進め方と人体の機能（生理学）の概要を説明する。		授業の進め方、特にチーム基盤型学習（グループワーク）についてと、評価方法（学習内容の要約の提出、ピア評価、レポート、定期テスト）の説明、参考書の紹介など。					講義、シラバスを必ず持参すること。		
第2回	呼吸のはたらきとその異常		呼吸運動とその調節、呼吸気量					講義		
第3回	呼吸のはたらきとその異常		ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸器系の病態生理					講義		
第4回	呼吸のはたらきとその異常		呼吸器系の病態生理					グループワーク（反転学習、TBL）		
第5回	体液・血液のはたらきとその異常		体液・赤血球、酸素分圧とヘモグロビンの酸素飽和度との関係					講義		
第6回	血液のはたらきとその異常		赤血球の機能とその異常、赤血球の破壊、					講義、レポート提出		
第7回	血液のはたらきとその異常		血液型、血液の凝固と線維素溶解、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、					講義		
第8回	血液の循環とその調節、およびその異常		心臓の機能、心臓（心筋細胞）の興奮とその伝播、心電図					講義		
第9回	血液の循環とその調節、およびその異常		血圧、血液の循環、血流量の調節					講義		
第10回	血液の循環とその調節、およびその異常		循環器系の病態生理、リンパ					講義		
第11回	血液の循環とその調節、およびその異常		血液・呼吸循環器系における病態生理					グループワーク（反転学習、TBL）		
第12回	栄養の消化と吸収、およびその異常		口・咽頭・食道・胃・腸の機能、栄養素の吸収と消化					講義		
第13回	栄養の消化と吸収、およびその異常		大腸・膵臓・肝臓・胆嚢の機能、消化器系の病態生理					講義、レポート提出		
第14回	体液の調節と尿の生成、およびその異常		糸球体、尿管の機能、傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量、					講義		
第15回	体液の調節と尿の生成、およびその異常		腎臓から分泌される生理活性物質、体液の調節、尿の貯蔵と排尿					講義		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、グループワークへの貢献度（10%、10点（個人及びチームによる準備確認テストの点数とピア評価を含む））、チーム基盤型学習（グループワーク）の内容に関するレポート（30%、30点）、定期テスト（60%、60点）の合計100%（100点）として、60%（60点）以上を合格とします。グループワークに関するレポートは、ルーブリックを用いて評価します。									
課題等	チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容については必ず事前に調べておくこと。調べる際には教科書だけではなく図書館を利用すること。授業には参考文献のコピーなどの資料を準備して臨むこと。レポートはコメントを付けて返却します。一定の点数以下のレポートは書き直して再提出を求めます。									
事前事後学習	事前事後学習（予習と復習）は各1時間程度行ってください。また各学習項目に対応する「ここだけ見れば〇〇がわかる！」を読み、さらに本文の該当ページにも目を通して、学修領域を把握し、図表への理解を深めておくこと。チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容は事前に提示しますので、事前に調べ、授業に参加してください。復習では、学習した内容をもとに「臨床場面で考えてみよう」をまとめ、また「解剖生理学が臨床につながる！」を読むことで臨床とのつながりを学び理解を深めること。さらに学習到達度チェックを行うこと。									
教科書参考書	教科書：ナースング・グラフィカ 人体の構造と機能①、解剖生理学（第5版）、武田裕子・林正健二 編、MCメディア出版、ISBN 978-4-8404-7831-1（必ず購入してください。） 参考書（購入する必要はありません）：①系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院、②なるほどなっとく！解剖生理学 改定2版、南山堂、多久和 典子、多久和 陽 著、③病気がみえるシリーズ、看護がみえるシリーズ（メディックメディア）など。									
留意点	レポートは必ず各自が書くこと。レポートの評価については授業内で説明します。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。									